【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第３区分
【発行日】平成23年5月26日(2011.5.26)

【公表番号】特表2010-530099(P2010-530099A)
【公表日】平成22年9月2日(2010.9.2)
【年通号数】公開・登録公報2010-035
【出願番号】特願2010-511157(P2010-511157)
【国際特許分類】
Ｇ０８Ｂ　13/22　　(2006.01)
Ｇ０６Ｋ　17/00　　(2006.01)
Ｇ０１Ｓ　13/74　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０８Ｂ　13/22
Ｇ０６Ｋ　17/00　　Ｆ
Ｇ０６Ｋ　17/00　　Ｌ
Ｇ０１Ｓ　13/74

【手続補正書】
【提出日】平成23年4月6日(2011.4.6)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
無効化された電子式物品監視タグの検出を抑制する方法であって、
　少なくとも１つのタグから信号を受信し、その信号は、信号検出情報及び信号無効化情報を含み、
　前記受信した信号から前記信号検出情報を抽出し、その受信した信号情報は、信号検出エネルギー値を含み、
　前記受信した信号から前記信号無効化情報を抽出し、前記受信した信号情報は信号無効化エネルギー値を含み、
無効化の失敗率を判定し、その無効化の失敗率は、前記信号無効化エネルギー値で除算した前記信号検出エネルギー値に対応し、
　前記無効化の失敗率が選択可能な閾値未満である場合に条件付けられるアラームイベントの発生を抑制することを含む方法。
【請求項２】
１つ以上の検出周波数フィルタの出力から、最高のエネルギー値を有する前記信号検出エネルギー値を選択することをさらに含む請求項１に記載の方法。
【請求項３】
前記信号無効化情報の抽出は、タイムスロットのタグウィンドウ部分の間に、複数のフィルタを使用して、前記受信した信号をフィルタリングすることを含む請求項１に記載の方法。
【請求項４】
前記複数のフィルタは、直交整合フィルタである請求項３に記載の方法。
【請求項５】
前記選択可能な閾値は、動的に調節可能である請求項１に記載の方法。
【請求項６】

複数の受信した信号データフレームをサンプリングして、雑音因子を確立することをさらに含み、その雑音因子は、前記動的に調節可能で選択可能な閾値を調節するために使用される請求項５に記載の方法。
【請求項７】
前記雑音因子の確立は、
前記複数の受信した信号のタイムスロットにわたる最高の検出信号振幅を平均化して、加重平均を生成し、
ローパスフィルタを用いて前記加重平均をフィルタリングすることを含む請求項６に記載の方法。
【請求項８】
前記雑音因子の確立では、前記雑音因子がタイムスロット雑音ウィンドウの間に測定される請求項７に記載の方法。
【請求項９】
前記雑音因子で前記選択可能な既定閾値を乗算することにより、前記動的に調節可能で選択可能な閾値を判定することをさらに含む請求項６に記載の方法。
【請求項１０】
無効化されたタグの検出を抑制するためのシステムであって、
少なくとも１つのタグから信号検出情報及び信号無効化情報を含む信号を受信する受信機と、
前記受信した信号から前記信号検出情報を抽出し、その受信した信号情報は信号検出エネルギー値を含む検出周波数フィルタと、
前記受信した信号から前記信号無効化情報を抽出し、その受信した信号情報は信号無効化エネルギー値を含む無効化周波数フィルタと、
プロセッサとを備え、そのプロセッサは、
無効化の失敗率を判定し、前記無効化の失敗率は、前記信号無効化エネルギー値で除算した前記信号検出エネルギー値に対応し、かつ前記無効化の失敗率が選択可能な閾値未満である場合に条件付けられるアラームイベントの発生を抑制するように動作するシステム。
【請求項１１】
前記プロセッサはさらに、１つ以上の検出周波数フィルタから最高のエネルギー値を有する前記信号検出エネルギー値を選択するように動作する請求項１０に記載のシステム。
【請求項１２】
前記検出周波数フィルタおよび前記無効化周波数フィルタは、１つ以上の直交整合フィルタから構成される請求項１０に記載のシステム。
【請求項１３】
前記選択可能な閾値は、動的に調節可能である請求項１０に記載のシステム。
【請求項１４】
前記プロセッサはさらに、複数の受信した信号のデータフレームをサンプリングして、雑音因子を確立するように動作し、前記雑音因子は、前記動的に調節可能な選択可能な閾値を調節するために使用される請求項１３に記載のシステム。
【請求項１５】
前記プロセッサはさらに、
前記複数の受信した信号のデータフレームにわたる最良の検出信号振幅を平均化して、加重平均を生成すると共に、
ローパスフィルタを用いて前記加重平均をフィルタリングすることにより、前記雑音因子を確立するように動作する請求項１４に記載のシステム。
【請求項１６】
前記プロセッサはさらに、前記選択可能な既定閾値を前記雑音因子で乗算することによって、前記動的に調節可能で選択可能な閾値を決定するように動作する請求項１４に記載のシステム。

【請求項１７】
前記検出周波数フィルタは、特定の周波数および周波数範囲のうちの１つにおいて前記信号検出情報を抽出し、前記無効化周波数フィルタは、既定の周波数において前記信号無効化情報を抽出する請求項１０に記載のシステム。
【請求項１８】
前記既定の無効化周波数は、実質的に５９，３００Ｈｚである請求項１７に記載のシステム。
【請求項１９】
セキュリティシステムにおけるコンピュータが読み込み可能なプログラムを有するコンピュータ読み取り可能な記録媒体であって、前記プログラムは、コンピュータ上で実行すると、前記コンピュータに、
少なくとも１つのタグから信号を受信させ、その信号は信号検出情報及び信号無効化情報を含み、
前記受信した信号から前記信号検出情報を抽出させ、その受信した信号検出情報は、信号検出エネルギー値を含み、
前記受信した信号から前記信号無効化情報を抽出させ、その受信した信号無効化情報は信号無効化エネルギー値を含み、
無効化の失敗率を判定させ、その無効化の失敗率は、前記信号無効化エネルギー値で除算した前記信号検出エネルギー値に対応し、
前記無効化の失敗率が選択可能な閾値未満である場合に条件付けられるアラームイベントの発生を抑制することを含む方法を実行させるコンピュータ読み取り可能な記録媒体。
【請求項２０】
１つ以上の検出周波数フィルタの出力から、最高のエネルギー値を有する前記信号検出エネルギー値を選択することをさらに含み、前記選択可能な閾値は動的に調節可能であり、前記動的調節は雑音因子に基づく請求項１９に記載の方法。